

(臨床研究に関する公開情報)

岡山医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

リバーズ TSA 患者の術後回復過程

[研究責任者]

研究責任者所属：国立病院機構 岡山医療センター

所属科：10A病棟

研究責任者名：安部 紗月

[研究の背景]

変形性肩関節症は、肩関節の軟骨がすり減ってしまい、骨同士が擦れる状態になってしまっていることを言います。腱板の大断裂のあとに、徐々に変形が進行してきたものは特に腱板断裂性関節症といわれる。こうした変形や関節リウマチ、上腕骨頭壊死、粉碎の強い上腕骨近位端骨折など、通常の人工関節などでは機能改善が困難であった病態に 2014 年より認可されたのが「リバーズ型人工肩関節」です。変形性肩関節症でも、腱板が残っている場合には、変形した部分を取り除いて通常の骨の構造と同様の形をした通常型人工肩関節に交換します。一方、腱板が修復困難で機能改善が望めない場合には、変形した部分を取り除いてリバーズ型人工肩関節を用いた人工関節置換術を行います。

10A 病棟では 2017 年の研究で、リバーズ型人工肩関節置換術を施行した患者の退院後の日常生活動作についての実態を調査研究していました。その結果、肩関節を使わない動作に関しては、退院後も継続して出来ていることが明らかとなり、退院後の生活を視野に入れた看護の示唆を得ることができました。

しかし入院中の回復過程に関しては研究をしておらず、看護をより良いものにするためには、入院中の回復過程を明らかにすることが必要であると考えています。そのためには当院でリバーズ型人工肩関節置換術を施行した患者の入院中の術後経過をカルテから情報を得ることで、困難な動作がどのくらい改善しているかを導き出していく必要があると考えます。

[研究の目的]

看護師からの積極的な日常生活指導の実施につなげていくために、入院中の経過を明らかにすることで今後作成を予定しているクリティカルパスへの参考とし、患者さんが今後を見据えた入院生活を送ることができるようになるようにするため。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

大腿骨骨折術後の患者さんで、西暦 2016 年 6 月 1 日から西暦 2018 年 3 月 31 日の間に当院でリバーズ型人工肩関節置換術の手術を受けられた方

●研究期間

臨床研究審査委員会承認後、研究実施許可日から西暦 2019 年 3 月 31 日

●利用するカルテ情報

カルテ情報：

(1) 診療録情報

- ・対象疾患
- ・年齢
- ・性別
- ・患肢部位
- ・利き手
- ・術前・術後の ADL
- ・外転装具装着期間
- ・退院もしくは転院
- ・関節可動域の変化より得られた客観的データ

●検体や情報の管理

検体や情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

国立病院機構岡山医療センター

研究責任者

10A 病棟 看護師 安部 紗月

電話 086-294-9911 (代表)

FAX 086-294-9255 (代表)